

杉並区構想審議会 第三部会 第二回 補足意見（今井千夏）

先日出席のメールを出ささせていただきましたが、本日は、体調の関係で欠席させていただきましたまして申し訳ありません。以下に補足の意見を述べさせていただきましたので、少しでもご参考になればと思います。

まずは外国語教育に関する補足です。昨年、民間(J-shine)の小学校英語指導者資格を取得した際に、教育支援教育協会代表理事の吉田先生がおっしゃっていたことを私なりに解釈したことを追加したいと思います。小学校外国語教育導入においては、外国の講師もしくは日本人の地域ボランティア、専門教員などが各担任と組んで授業をすすめます。授業の目標は、英語の素地を養うということです。日本語と同等に堪能になるということが目標ではありません。そして、これから10年間くらいかけて、地域のボランティアを中心とした民間の力でこの小学校外国語教育が確立されていくであろうというお話でした。基本は無償でも引き受けるぐらいの心意気をお願いします、とおっしゃっていました。地域の力、ボランティアの力が大きく影響するということだと思います。

私が参加させていただいた杉並区内の小学校の英語授業では、日本人の民間ボランティアと担任がチームを組んでいましたが、ボランティアの力量の差があるのではないかと感じたと同時に、現場の声を聞くと、外国語教育の負担は、激務といわれている小学校の教師にもものしかかっており今後の課題の一つであるかと思えます。民間の力ということで、杉並区ではすぎなみ地域大学で英語サポーター講座などでNPO団体と組んで日本人講師のサポーターを派遣されているようです。（現在は、登録済みのサポーター人数が多いようで新規の受付はしていないようですが）それは、とても素晴らしい取り組みだと思いますので、それに加えて、もっと潜在的に有能なボランティアを取り入れる仕組みをつくったり（退職された英語が堪能な方や帰国子女の学生など）、研修などを通してよい実践例など積極的にシェアしたり、地域でもっと国際理解教育を活性化させるイベントをしたりと、外国語教育及び国際理解教育を杉並区の目玉として考えるのもよいのではないかと思います、一つの案としてご提案させていただきました。

またこれは、地域を巻き込むということに関してですが、外国人の先生が地域の公民館で乳幼児のために講座をやっている例がありますが、英語に興味を持たれている高齢者の方々も多いと思うので、生涯教育の一環として、そのような場を増やしてもよいのではないかと思います。杉並区は外国人構成比率も低いというデータもあったかと思いましたが、このような色々な取り組みをすることでダイバーシティ促進できたらよいとも考えます。

ただ、先日の議論でも最後に述べさせていただきましたが、A委員が発言されたようしつかりとした日本語教育も重要視されるべきことは明白であります。この部分は、言語という観点から考えて教育の中で少しでも強調されていければよいのではないのでしょうか。そして、そこから発展して、これからの若者が備えるべきものとも関連づけられるのではないのでしょうか。B委員がおっしゃっていたような、無気力な子供、生きる力や考える力に関すること、E委員がご経験されている若者の現実など聞きますと、この部分はなにか改めて構想に取りこむべきではないかと思っております。可能であれば、区民意見交換会などで、より多くの区民の方々の意見を聞いたりすることも大切だと思います。

私は、杉並区はとても子育てにやさしい、よい環境があると聞いて、将来を見据えて、昨年杉並区に引っ越してきました。(私が卒業した中学校、高校も杉並区ですので環境の良さは前から実感しております)杉並区はすでによりよい政策が沢山ありますが、若い世代と高齢者の方々の世代がよりうまく調和しお互い助け合いながら共に成長し、より多くの若い世代が、安心して家族をつくっていききたいと思う区になればいいと願っています。そのためには、まず乳幼児期の子育てに関してとして、C委員が取り組んでいらっしゃる待機児童の解消も大事なことは前提だと思います。

また、私は高齢者の方々から、学びたい事が沢山ありますが(例えば専門的なことはもちろんのこと、リタイアされた方から仕事をする上でのご経験、ご自分の生き方について、子育ての醍醐味、昔のご自分の経験など)、それを学ぶ場があまりないようなも思います。そして、自分の子どもが生まれてきたら、地域の方々と触れあい色々学びながら成長していきたいです。D委員が以前述べられました、「知の循環社会を目指していくことが、今後の大事な課題になるだろう」というご意見もとても参考になりました。高齢者の方々の豊かな経験を若い世代に、そして、それを次の世代にということはとても重要なことだと思いますし、杉並区がこのことにより取り組んでいけば年齢を問わず生き生きした区民がより多くなるのではないかと考えます。

他にも、意見ででました、小中学校の体育館などを高齢者の方も使えるようにするという仕様はとてもよいと思います。調べてみたら、ある児童館では、高齢者と子供と一緒にフラダンスをするなどの試みもあるようなので、このようなことを体育館で実現できたら面白いかとも思います。その意味で、小学校や中学校も、より地域に開かれた存在になることが必要でしょうか。(防犯などの面で実現されにくい部分もあるかもしれませんが)

審議委員の皆さまに比べまして、様々な面で経験、考えが未熟かと思いますが、長い文章を読んでいただきありがとうございました。